



確かな学力の向上をめざして【2月】

障がいのある児童生徒の学びを支えるために ～中部地区特別支援教育 合同研修会「自立活動研修会」より～

自立活動の授業公開、指導者のミニ講義から指導の在り方について学ぶ研修会を実施しました。当日は参集、オンライン合わせて28名の参加でした。

参加者による意見交換では、日頃の悩みや自立活動の意義等について、教員同士で理解を深め合う姿が見られました。自立活動の視点を通して、児童生徒一人一人の学びを支える指導を考えましょう。

参加者の声（一部抜粋）

自立活動の視点への理解が深まってきているね！

45分の中にそれぞれの子どもたちに身に付けさせる力を意識して授業を組み立てていることが理解できた。教師のつぶさに褒める言葉やねらいにせまる言葉かけがとても参考になった。

指導メモ（資料①）がとても参考になった。さまざまな実態のある児童へのアラカルトメニューも参考にしたい。情動と行動の関連に目を向けられるような内容を職員研修に取り入れていきたい。

同じ活動であってもアレンジを加えてレベルアップ（資料②）させていくことで、児童が興味関心をもって参加していた。また、活動の直後に振り返ることで児童の具体的な言葉を引き出していたので真似したいと思う。

児童の実態を把握した上で指導内容を設定すること、その際、配慮事項（資料③）を踏まえることの大切さがよくわかった。子どもたちが互いに関わり合い、刺激し合いながら学びを進める活動の設定が参考になった。



資料①「自立活動についての指導メモ」



資料②「授業について」



資料③ 指導内容を設定する際の配慮事項「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説・自立活動編P111」より

Point

自立活動は（1）深い児童生徒理解のもと、資料①にあるように（2）自立活動の6区分27項目の内容を踏まえ（3）指導すべき課題を明確にすることによって（4）個別に指導目標や具体的な指導内容を定めます。目標を達成する上で効果的である場合は、集団を編成して指導することも可能です。

自立活動の考え方は、全ての児童生徒への指導の根底にかかわるものだね。一人一人が持っている力を引き出すためのオーダーメイドの指導や支援を子どもの姿から考え、実践していくプロセスが大切だね。

授業公開では、子どもたちのやる気と笑顔があふれ、指導者が、子どもたちが「分かる」「できる」ための手立てを丁寧に工夫していました。それは、通常の学級においても大切な視点になります。全ての教職員が、子どもたちの個性やよさを理解し、個別最適な学びを支えるための指導力を身に付けていきましょう。